

無痛分娩における注意事項

- ① 当院の無痛分娩は硬膜外麻酔で行います。硬膜外麻酔は腰椎の硬膜と髄膜の間に針を刺しそこから細いチューブを留置し、分娩まで定期的に薬を注入します。このため、肥満の人や、うまく背中を丸められない人は、チューブが入らない場合があります。無痛分娩ができない場合があります。
- ② 副作用として針を刺す際に硬膜の奥の髄膜が破れることがまれにあり、その場合は無痛分娩を中止します。また、頭痛が1週間くらい続くことがあります。
- ③ 無痛分娩では陣痛の痛みがなくなるため、うまくいきめずに、吸引分娩となることが多くなります。
- ④ 硬膜外麻酔は入院時または、痛みが出だしたところで行います。
- ⑤ 非常勤の医師が当直の場合、硬膜外麻酔をまってもらったり、最悪行えない場合があることをご容赦ください。